

ボランティア紹介・安井博子さん ティナラク織バッグ製作

伝統工芸品技術をもつ組合員約 100 名からなる COWHED のマイクロファイナンス事業(ILO フィンランド助成)が 9 月から始まりました。これまで当会はスタッフ手当支給などによって、その運営を支えてきましたが、今後はハンディクラフトを日本で紹介・販売するという形の支援に限定する予定です。

軽くて丈夫なティナラク織のバッグや小物のファンは徐々に増えていますが、現地縫製品の中には使い勝手などで今ひとつというものもあります。

数年前から縫製ボランティアをお願いしている安井さんが、手が不自由な方でも使いやすいポシェットをデザインし作製してくださいました。マジックテープで開閉しやすく、外側には携帯電話のポケットもあります。

「現地でも縫えますよ」という助言をいただき、11 月出張時に見本を持参します。(山崎)



車椅子の夫・隆さんを介護する傍ら、素敵なデザインと縫製をしてくださる安井さん
(隆さんの営む奈良の古美術店で)



携帯電話ポケット付きポシェット
サイズ 20cm × 20cm



この夏大人気だった帽子

ミンダナオ再訪と形成外科治療について 中村理美

4 月に PIHS にお世話になった中村です。そのとき医療が十分に行き渡っていないことを痛感しました。帰国後、パレスチナの医療 NGO の関係で知り合った森岡先生にそのことを伝えると、「フィリピンには行ったことがないし、病院との交渉や患者の取りまとめをサポートしてくれる現地団体があるのならやりやすいです」と治療を快諾してくださいました。HANDS に森岡先生をご紹介できたことを光栄に思います。

形成外科の手術は、一般外科や内科とは違い、一週間で見えた結果が出ます。その結果、患者さんのその後の人生が変わります。今回も、口唇裂により学校でいじめられるため、登校拒否になっていたが「これでもう大丈夫」と嬉しそうに話をしてくれた親子がありました(写真左)。

彼が今後勉強に励み、職を見つけることができれば、彼のみでなく家族の人生をも変えることができるでしょう。

HANDS はこのような医療活動は初めてだったと伺っています。今後、この地域の患者さんたちが同様の機会を得られることを心から祈っています。

私も将来ミンダナオの人々に貢献できるような医師を目指して勉強していきたいと思います。



手術直後のメラニオくんとお母さん



現地ニュース番組の取材を受ける